

1 訪問日程

11月18日(木)

<往路>鹿児島空港～与論空港

与論町役場訪問

町担当者および与論町福祉協議会との打ち合わせ

地元唄者との交流(与論町民謡保存会)①

11月19日(金)

与論小学校特別支援学級訪問 ②

音楽療法実践(与論町社会福祉協議会介護予防教室「いきいき倶楽部」) ③

なかよしコンサート in YORON ④

民謡居酒屋「かりゆし」⑤

11月20日(土)

音楽療法実践(特別養護老人ホームヨロン園) ⑥

情報収集(民俗村見学)

十五夜踊りに参加 住民との交流 ⑦

11月21日(日)

おさかな祭り参加

<帰路>与論空港～鹿児島空港

2 事業報告

今回の訪問における活動は、(1)「与論にある音楽文化を体験する活動」と(2)「音楽活動を提供する活動」の2種類であった。

(1) 与論にある音楽文化を体験する活動

① 初日の夜に「与論町民謡保存会」の方々7名と交流活動を行った。同保存会は会員の高齢化に伴い、現在活動休止中とのことだったが、私たちの要請に応じてお集まりいただいた。はじめはお互いに躊躇してぎこちない雰囲気があったものの、共に歌ううちにすっかりうちとけて、あつという間の2時間であった。手踊りを教えていただいたり、三線を触れたりするうちに学生の興味は高まり、後日いただいたアンケートに「学生さんたちは素直に熱心に私たちの話などに耳を傾けてくださりありがたいことでした。」とのお言葉をいただいた。

⑤ 2日目夜に訪れた民謡居酒屋「かりゆし」は琉球音楽、与論の情緒あふれるオリジナル音楽をライブで聴かせる場である。誰からともなく踊りが始まり、非日常の空間に発散と癒しの効果を感じる。学生たちは、初日に教えてもらった手踊りで、すぐに踊りの輪に入り、地元の方や観光客とコミュニケーションをとることができた。「音楽活動がコミュニケーションを促す」という音楽療法で学んでいる点を、自らそれを体感する機会となった。

⑦ 重要無形民俗文化財である「十五夜踊り」は、初日・2日目に体験した音楽と異なる、これまでに出会ったことのない音楽であった。少なくとも、私たちが一般に琉球音楽と呼んでいるものとは違う、そういう印象が強いものであった。神事であ

ることや見物客はまさに宴を楽しむ様子から、残念ながら、どのように継承されているのかを情報収集することがままならなかった。しかし、これこそ、学術的には保存すべき素材ではないかと感じた。楽譜を起こすなどのことに着手したい。

## (2) 音楽活動を提供する活動

② 与論小学校特別支援学級訪問は申請時の計画には入っていなかったため、スケジュールに無理があり、対象の児童や保護者、担任の先生、さらに学校側にご負担があったのではないかと大変反省している。重度の障がいのあるお子さんであることは重々承知しており、事前の情報もいただいていたが、朝の早い時間で、さらにあまり時間もあまりとれないことから、十分なかかわりができなかったことが非常に残念である。重度のお子さんに対して、分かりやすい学習の場を設定して継続するのに音楽は最適であることを伝えたかったが、具体的な助言ができなかったことが悔やまれる。

② 与論町社会福祉協議会にご協力いただき、介護予防教室「いきいき倶楽部」で音楽療法実践をさせていただいた。昨年、社会福祉大会で同様の活動を提供したが、今回は少人数であることから、より充実したものにしたいとの願いがあった。平均年齢 79 歳という参加者は、「音楽に対して聞かれている」という点が若さの秘訣であると直感した。普段からさまざまな現場で、セラピストとの個人的なかかわりを目的に、手元に差し出された太鼓を叩きながらリズムカルにあいさつや自己紹介を行う活動をしている。この活動に対して、初めてのときは当然躊躇があるが、この「いきいき倶楽部」の皆さんには全くそれを感じなかった。それどころか、即興的にさまざまな表現が飛び出し、非常に驚かされた。他の活動も軽々とこなされ、普段から心身のリズムにヴァリエーションが豊富で、音楽的に生きていらっしやることがわかった。トーンチャイムを気に入ったとの感想をいただいた。

④ 当初、一般町民を対象にコンサートを行う予定であったが、十五夜踊りには全国からの帰郷される方々が大勢あり、それに合わせて町で行われる行事があるとうかがい、開催は難しいことが判明した。そこで与論小学校に無理を申しあげ、音楽の時間として全校生徒を対象に行った次第である。午前中に「いきいき倶楽部」の音楽療法を終えた直後であったため、高齢者たちと児童の音楽に対する反応を比較する結果となったが、高齢者の音楽に対する態度と児童のそれは大きく異なっていた。というも、学生たちが手拍子を促してもためらう様子があり、すぐに音楽に入り込んでくるような印象は持てなかった。しかし、アンケートを見るとコンサートを興味深く鑑賞した様子うかがわれ、特にリズムの際立った楽曲に対する反応がよかった。また、初めて体験した「音付け絵本」やトーンチャイムアンサンブル、児童たちも参加した手話ソングの人気も高かった。

⑤ 3 日目は特別養護老人ホーム「ヨロン園」において音楽療法を行った。ここでも対象集団の詳細な実態は分からなかったが、担当者との事前の打ち合わせを行い、与論の方言と琉球音階を用いたあいさつの曲を作曲し準備しておいた。この楽曲を用いた活動で「はいはい」と合の手を入れてもらったが、そのノリの良さに「いきいき倶楽部」同様の印象ももった。手拍子や手踊りを促すと、すぐに立ち上がって踊り出す方もおられ、スタッフの方によると「これまでの音楽での慰問とは反応が違った」とお応えいただいた。また、これからの園での活動に、継続して生かせるような活動として、「ロープを使った活動」を挙げていただいた。

### 3 まとめ（提言）

最も強調したい点は、与論には豊かな自然に勝るとも劣らない「音楽という資源がある」ということである。高齢者たちの若さは音楽があつてこそのものだと確信した。介護予防対象者の平均年齢の高さと共に、特別養護老人ホームに入所されている何らかの介護が必要な高齢者であっても、その音楽と共にある姿には、本土の高齢者とは異なる若々しさを感じた。この事業に応募したテーマの「介護予防に音楽療法を」などとはおこがましい考えであり、与論の音楽文化を継承することが住民にとっては豊かに生きることにために重要である。さらに、観光客や学生の島の音楽文化に自然と溶け込み、そこに生まれる交流に浸っている様子を見てみると、これは観光資源としても生かしていくべきではないかと感じている。

しかしながら、小学校で出会った子どもたちは、残念ながらすでに与論の伝統である「音楽と共にある姿」を失いつつあるように思う。これは、島外の文化が流入していること、日本全国各地でも同じ音楽文化を享受できるようになったことの代償であろう。民謡保存会の方々、島の伝統音楽について「昔ほどではないが、ほぼ受け継がれている」とお答えになっているが、島の生活の中での音楽の位置は確実に変化しつつあるとの印象を持った。音楽そのものよりも、与論に脈々と受け継がれてきた「音楽と共にある姿」、つまり自然に人が集い、集えば唄があり踊りがあるという豊かな音楽文化をどう守るかが、これからの課題ではないかと考えた旅であった。勿論、与論の伝統音楽は受け継いでいかななくてはならないが、島外の私たちが協力できることは採譜などのペーパーベースのことであろう。音楽は生き物であり、到底紙の上、五線上にすべてを記録することはできない。急激に失われつつある与論の「音楽と共にある姿」に対して手を打つことが、結果として与論の伝統的な音楽文化を守っていくことになるのではないかな。

そこで、島外の人々と音楽交流の場を設定し、島民たちは伝統的な音楽文化でもてなすということを提案したい。これは優秀なプレイヤーが演奏を披露して、参加者が聴くという形態ではなく、共に活動できる音楽活動があることが重要である。与論小学校では手話ソング、ヨロン園では楽器やロープを手にしたときに参加者の表情が一変したこと、かりゆしで踊る客同士の交流、ここにヒントがある。このような場があれば、与論の伝統は日常的ではないにせよ、何らかの形で受け継がれていくものと思う。私も伝統文化継承に協力しながら、新しい形のコミュニティ音楽療法を探ってみたい。

### 4 おわりに

今回の事業には与論町役場、与論町社会福祉協議会、そして与論小学校に多大なるご協力をいただき、これだけのスケジュールをこなすことができた。欲張ったスケジュールのために、一つ一つの事業が深まらないものになってしまったかの感はあるが、欲張ったがゆえに多くの方々との出会いがあり、学生たちはこの点にもっとも満足している。与論島の皆さんに届けた音楽よりも、私たちが改めて気付いた「音楽の力」や「音楽と共にあること」の意味を考える体験の方が大きかった。

ありがたいことに与論町役場からは、与論小以外の学校から「なぜ私たちの学校には来なかったのか」との声に、来年も来島してほしいとの要請があった。交流を深めるためには、継続的な取り組みが必要だと感じているところである。

最後に、関係各位、離島振興会の格別なるご高配に心より感謝申し上げます、報告としたい。

アイランドキャンパス事業 (2010年11月18日～21日、与論島にて) 交流風景より



与論町民謡保存会の皆さんと共に歌う



与論小学校特別支援学級にて



与論町社会福祉協議会介護予防事業「いきいき倶楽部」  
もともと好評だったトーンチャイム奏



「なかよしコンサート in YORON」のひとこま  
トランペット・ユーフォニアム二重奏



特別養護老人ホーム「ヨロン園」にて  
学生たちと共にハンドベルを鳴らす利用者様